

健康・医療研究開発データ 統合利活用プラットフォーム事業

—事業の構想案と進め方について—

2022年11月18日（金）

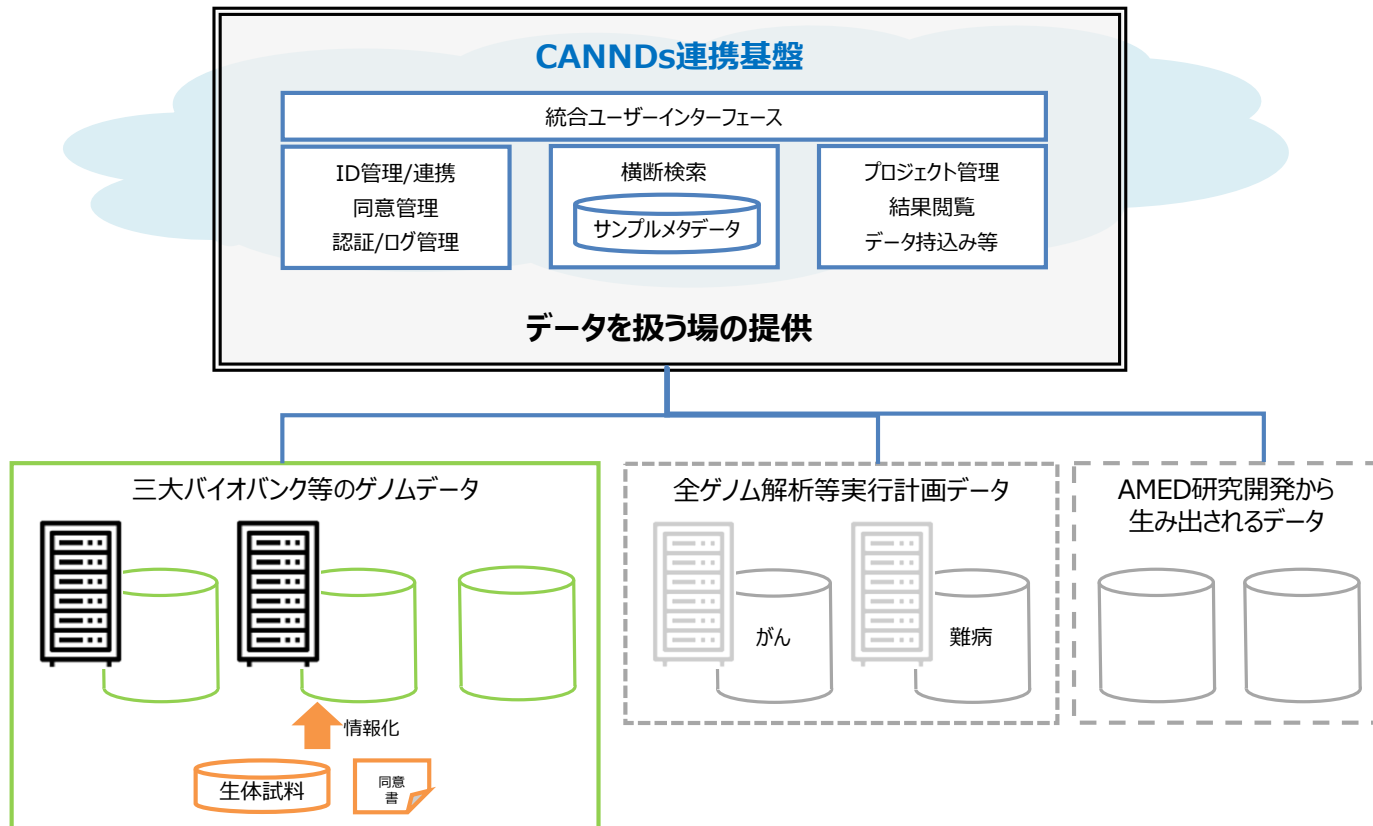
日本医療研究開発機構（AMED）
データ利活用基盤整備推進準備室

健康・医療研究開発データ統合利活用プラットフォーム

健康・医療研究開発データ
統合利活用プラットフォーム
(CANNDs)

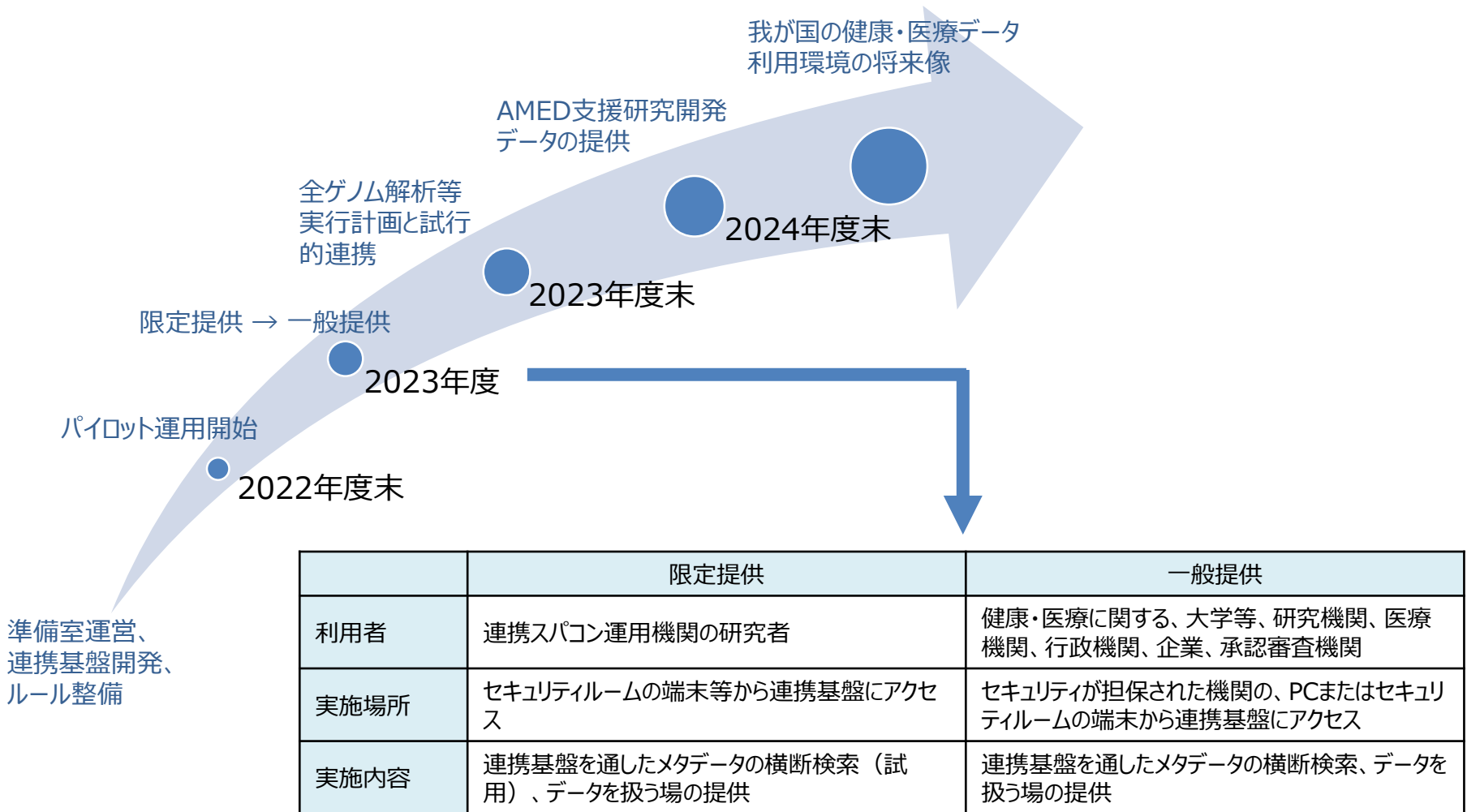
利用研究者
(大学等)

利用研究開発者
(企業等)



全ゲノム解析等実行計画データ：厚生労働省で進めているがんと難病のゲノムデータ

プラットフォーム事業の構想案

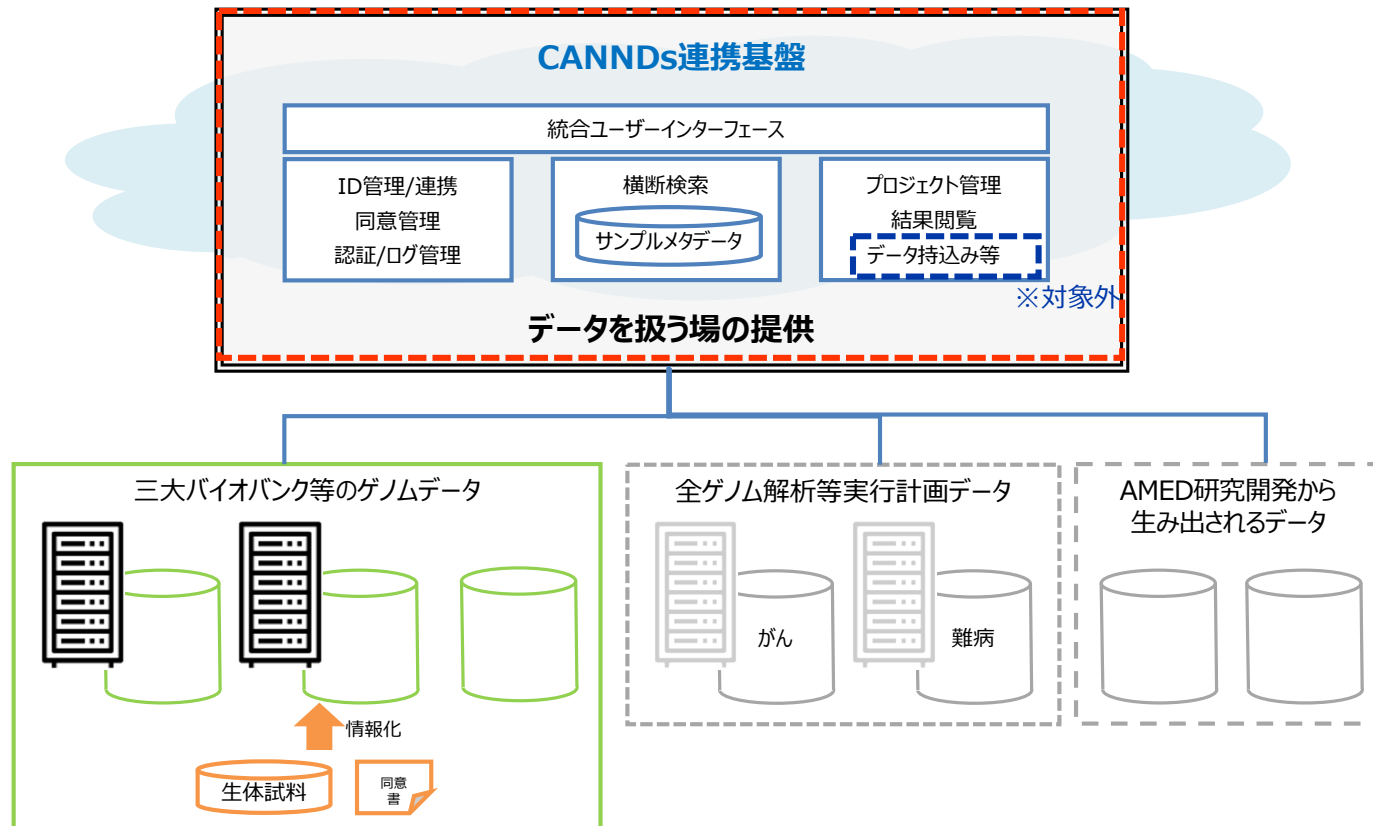


今後の論点

- 現在は、ストレージ及びデータ提供環境（連携基盤に接続してデータを提供できる環境）はデータ提供者のサイトにあり、連携基盤はメタデータを収載することを前提としたシステム構想になっているが、今後データ提供者の多様化（データ提供環境を持たない場合等）へも対応していく必要がある。
- データ利用者が多様化した場合の計算環境の提供のあり方を整理し、検討していく必要がある。
- 利活用審査（Data Access Committee（DAC）による審査）については、データの特性、利用方法・形態、審査プロセスの迅速化や申請者への可視化等、利用者にとっての利便性を考慮し、CANNDsを運用するAMEDとデータ提供者間での役割分担、審査主体のあり方について検討を進め、一般利用開始までに対応する必要がある。

健康・医療研究開発データ統合利活用プラットフォーム

「連携基盤機能の構築」の対象範囲



 基盤機能（統合UI/UX、横断検索、ID連携、認証、同意管理、ログ管理）を令和4年度に開発を実施

 データ持込み等については、令和5年度に開発を予定

AMEDにおける検討の進捗について

データ利活用に関する検討

データ利活用に関する検討会

5月26日 第1回開催

- AMED説明文書用モデル文案については、データの第三者提供について先行するが、念頭においた『「全ゲノム解析等実行計画」説明文書用モデル文案』を参照しつつ、作成することが議論された

9月29日 第2回開催

- AMED説明文書用モデル文案の素案について議論が行われ、令和4年度内に最終案を取り纏める方針が了承された

12月頃 第3回開催予定

2月頃 第4回開催予定

データおよび分析等の連携に関する検討

- 現在「連携基盤の構築」の調達を実施中（11月開札、12月契約）
- 関係機関と今後のシステム開発や、より具体的な検討を実施中

データおよび分析等の連携に関する検討会

12月頃 第1回開催予定

3月頃 第2回開催予定